全文協総会

4氏が理事に新任

日本の文具を世界に発信

一般社団法人全日本文具協会（石川真一会長）の第13回定時総会は、6月9日午後5時から別項の東京文具工業連盟総会に引き続いて同会場で開催、上程諸議案を原案通り承認可決し、任期満了に伴う役員改選では、退任理事に代わって田中宏和氏（LIHIT LAB.）、山下慎二氏（寺西化学工業）、田村光氏（セーラー万年筆）、水谷豊氏（あかしや）の4氏が理事に新任し、その他は石川会長以下全員が留任した。

石川会長が議長に就き、口分田尚志氏（コレクト）と小林大地氏（サンスター文具）を議事録署名人に指名したあと、会員数60人中、本人及び委任状含めて57人の出席で総会が成立することを宣言した後、議事に移った。

挨拶する石川真一会長

議案は①令和6年度事業報告承認の件②同決算報告承認の件③令和7年度事業計画承認の件④同収支予算承認の件⑤役員改選の件⑥その他の件で、全て原案通り承認可決した。

このうち、事業計画としては①文具に関する調査研究事業では、グリーン購入法、エコマーク、プラスチック、カーボンフットプリント、SDGs、安全性向上、安全性、知的財産権、生産統計・貿易統計などの調査研究②文具に関する研修会及びセミナー等開催事業③文具に関する国際見本市の開催事業④内外関係機関等との交流及び協力⑤その他件では、競争法コンプライアンスの策定など、前年度を踏襲した5項目を掲げた。

これら事業を遂行するための事業活動支出として2139万円を計上した。

任期満了に伴う役員改選では、次のように決めた。

【新役員】

会長　石川真一（ゼブラホールディングス）

名誉会長　数原英一郎（三菱鉛筆）

副会長　今泉嘉久（プラス）、西村貞一（サクラクレパスホールディングス）、黒田章裕（コクヨ）、宮本彰（キングジム）、舟橋正剛（シヤチハタ）、小川晃弘（トンボ鉛筆）、長谷川豊（ヤマト）

理事　吉田用親（日学）、田中葉子（開明）、西川雅夫（セキセイ）、会田一郎（デザインフィル）、加藤泰稔（馬印）、口分田尚志（コレクト）、小林大地（サンスター文具）、清野宏（ライオン事務器）、梶田安彦（不易糊工業）、寺浦浩之（クツワ）、高津敏明（ニチバン）、湯本秀昭（ナカバヤシ）、山際義敬（呉竹）、藤﨑文男（パイロットコーポレーション）、和田優（ぺんてる）、森泰澄ベンジャミン（カール事務器）、田中宏和（LIHIT LAB.）新、山下慎二（寺西化学工業）新、田村光（セーラー万年筆）新、水谷豊（あかしや）新

専務理事　大沼章浩（事務局）

監事　宮本淳司（日本白墨工業）、徳山太（シード）

総会終了後、東京文具工業連盟との合同懇親会を開催、最初に石川会長が「全文協の活動の一つは、国及び諸官庁の指導の下で活動することが柱になっている。もう一つの柱である見本市活動がじり貧で、本年度より見本市関連の収入がほとんど無くなり、このままでいくと全文協の活動が制限されるし、将来の発展性もあまり見込めなく、悲観的になってしまうので、今後2年間、違ったかたちで皆さんの協力を得られるようにやっていきたいと思う。具体的にはこれから各社に伺うので協力を願いたい。日本の文具は世界的に支持を得ており、文具店でもインバウンドで大変賑わっており、もっともっと日本の文具の素晴らしさを世界に発信する場を作っていきたい」と挨拶、東京文工連・長谷川会長の乾杯の音頭で開宴、賑やかに歓談、親睦を深めた。

中締め挨拶として西村副会長が「東京では万博への関心度が低いようだが、夏の文紙MESSEを兼ねて万博にも足を伸ばして欲しい」と挨拶、宮本副会長の閉会の辞で閉じた。

東京文工連

変化をチャンスに

革新的で持続可能な団体に

一般社団法人東京文具工業連盟（長谷川豊会長）は、6月9日午後4時から、東京都中央区のロイヤルパークホテルで第13回定時総会を開催、上程諸議案を原案通り承認可決し、任期満了に伴う役員改選では、新理事に田村光氏（セーラー万年筆）、宰務伸也氏（パイロットコーポレーション）が新任したほかは、長谷川会長以下全員が留任した。

挨拶する長谷川豊会長

総会に先立ち、長谷川会長は「米不足により、大きく利益を上げているところもあるようだが、文具業界はその様な状況ではない。世界に向けて良い新製品を開発していきたいし、変化をチャンスと捉え、時代を見据えて革新的で持続可能な団体として継続運営していきたいので各位の協力を願いたい」と挨拶。

議事録署名人に口分田尚志氏（コレクト）と小林大地氏（サンスター文具）を指名し、会員41人中、本人及び委任状含め40人、特別会員7人の出席で総会が成立することを宣言して審議に移った。

議案の①令和6年度事業報告の承認の件②同決算報告承認の件③同公益目的支出計画実施報告書承認の件、監査報告の件④令和7年度事業計画承認の件⑤同収支予算案承認の件⑥役員改選の件⑦その他の件を全て原案通り承認可決した。

このうち、事業計画案は前年度を踏襲し、①文具の生産・貿易及び流通に関する調査研究事業②文具の生産者の資質向上に関する研究・講演会事業③文具の普及啓蒙活動④関係官公庁及び関係団体との連絡と折衝に関する事業⑤その他本連盟の目的を達成するために必要な事業の5項目を掲げ、これら事業活動に伴う事業活動支出として654万3000円を計上した。

任期満了に伴う役員改選は、次のように決めた。

会長　長谷川豊（ヤマト）

名誉会長　石川真一（ゼブラ）

副会長　宮本彰（キングジム）、小川晃弘（トンボ鉛筆）

理事　藤本トモエ（トモエ算盤）、田中葉子（開明）、数原徹郎（三菱鉛筆）、小林大地（サンスター文具）、口分田尚志（コレクト）、新宅栄治（プラス）、高津敏明（ニチバン）、吉田朋弘（日学）、和田優（ぺんてる）、森靖澄ベンジャミン（カール事務器）、田村光（セーラー万年筆）新、宰務伸也（パイロットコーポレーション）新

専務理事　大沼章浩（事務局）

監事　宮本淳司（日本白墨工業）、大山隆久（日本理化学工業）

なお、その他の件で令和7年度児童養護施設等への文具類寄贈として、会員企業28社から12622点（542万1726円相当）が提供され、5月13日に東京及び東京近郊の児童養護施設、母子施設等31施設に寄贈されたことを報告。

フエキ
http://www.fueki.co.jp/

渡邊理事長を再任

○…東紙工連…○

事業内容は前年度踏襲

【ビューロウ発】協同組合東京紙製品工業連盟（渡邊一弘理事長）は、5月27日午後3時から、東京・東上野のオーラムで「第77回通常総会」を開催、役員改選の結果、渡邊理事長らの再任を決めた。

総会は、山田副理事長の

東紙工連の総会

進行で、はじめに市瀬副理事長が「紙を取り巻く環境は、デジタル化や世の中の変化により厳しい状況となっている。特に、封筒は郵便料金の値上げにより逆風の中にある。思い切った改革が必要で、大きく舵を切って未来をつくる正念場である。切磋琢磨しながら、お互いに生き残る道を見つけていきたい」と開会挨拶。

続いて、渡邊理事長が「理事長に就任して2年経った。前代未聞のスタートとなったが、何とか無事に任期を終えることができた。アメリカの関税問題をはじめ、目まぐるしく変わる世の中に対応しなければならない。理事、会員だけでなく、賛助会員の皆さんとも意見を交換して、対応していきたい」と所感を述べた。

組合員総数30人中、本人11人、委任状17人の合計28人の出席を確認したあと、渡邊理事長を議長に選出して議事に入り、上程諸議案を原案通り承認可決した。

このうち新年度の事業計画案では、総務・イベント推進・経営情報活性化・労務賃金働き方改革研究などの事業別委員会、ノート折紙・クラフト二重封筒・祝儀用品などの業種別部会ともに、前年度事業を踏襲する内容で承認した。そのための予算として1451万円を計上した。

任期満了に伴う理事および監事選挙の件は、選考委員制で行われ、理事14人、監事1人を選出し、直ちに第1回理事会を開催して理事長らを選出した。

議了後、再任された渡邊理事長が「私がもう一期理事長を拝命した。この2年を振り返ると、反省すべき点、改善すべき点が多々あり、これらを踏まえて努めていきたい」と挨拶し、最後に、菊地常任理事が閉会挨拶を述べたあと、別室で懇親会を開催して、なごやかに歓談した。

【新役員】

理事長　渡邊一弘（ツバメノート）

副理事長　市瀬豊和（山櫻）、山田樹孝（寿堂紙製品工業）

常任理事　高島正廣（菅公工業）、堀口達夫（平和堂）、村松道哉（マルアイ）、菊地清隆（丸菱紙工）、角坂靖夫（日本ノート）、高木邦達（高春堂）

理事　井口栄一（マルマン）、田島義一（東京ユニオン）、千田昌男（サンエックス）、山口隆司（山口封筒店）新、小沼昌毅（ショウワノート）新

監事　大井潤一郎（エヌビー社）

KOKUYO
貼るって、こんなに変われる。
GLOO